



資 料

奥三河・東栄町で育まれた26年の軌跡

～地域を愛し、土地に根差す覚悟が未来を創造する～

NPO法人てほへ 副理事長
志多ら総合統括プロデューサー

大脇 聡

NPO法人
てほへ



1

志多らと東栄町の出会い、そして、移住へ

愛知県小牧市にて
太鼓衆**志多ら**の結成
(1990年7月)



拠点移動

旧中央小学校の太鼓クラブ
(明神太鼓)が縁で、
東栄町へ拠点を移す
(1990年9月～)



移住

活動方針を新たに
再スタートをする。
地域に根ざす、
芸能集団を目指す。
メンバーが本格的に移住。
(1993年～1994年)



・現在の志多らを支える
メンバーが多数入座

・座員3名、助っ人で
演奏活動

・稽古場として利用
・一年間のホテル興行
→**会社の倒産とチームの分裂**



「熊野神社」(東菌目)の境内に
小学校(志多ら)があります。

2

志多ら、NPO法人てほへ 居住定住の状況（2015/12/1現在）

	東栄町居住	東蘭目区	その他町内	住民票が町外
志多ら 舞台メンバー	7名	2名(社員寮)	5名(町営住宅)	1名
研修生	1名	1名(社員寮)		1名
制作スタッフ	7名	2名(夫婦+子供2名)*空き家購入で居住 1名(東蘭目の方と結婚+子供3名) 1名(東蘭目の方と結婚+子供1名) 1名(社員寮) 1名(社員寮)*単身赴任	1名+子供2名(町営住宅)	
事務パート	2名		2名(夫婦+子供3名、夫婦+子供2名)	
スタッフ	3名	2名(社員寮)	1名(夫婦+子供1名)	
てほへ 協力隊員	1名		1名	
Café/パート	3名		3名(Uターン1名) (町の空き家活用住宅で2名 →夫婦+子供2名 夫婦+子供4名)	
合計24名 (Iターン者23名、Uターン者1名)				

3

花祭りが東蘭目住民へと志多らを導いた

東蘭目地区の花祭りに創作舞「志多ら舞」奉納



2012年奉納(18年目)



2013年奉納(19年目)



2014年奉納(20年目)



2015年奉納(21年目)

地域コミュニティの中心である花祭(祭り)を通じて、Iターンの若者から村の若者へ変化

→住民としての志多らメンバーの意識の変化

→志多らメンバーに対する住民の意識の変化

4

志多らの活動で地域に貢献し恩返ししたい



- ・文化の力(音楽・芸能)で、町を元気にしたい！
- ・花祭りを大切に受け継いでいきたい！
- ・子供たちのために、魅力あふれる町にしたい！
- ・町民が自信をもって誇れる町にしたい！
- ・東栄町に暮らしたい人を増やしたい！
- ・この町で暮らすために仕事を生み出したい！など

志多ら(Iターン者)が地域に溶け込み共住することで感じたものを形にする仕組みを作る
NPO法人てほへ設立 (2010年に志多らファンクラブ組織を法人化)
 →奥三河を元気にする活動を目指す！

持続可能な地域をつくり、祭りと共に暮らし続けるためにどうするか？

～主な取り組み～

- * 奥三河のき山放送局(情報発信事業) →地域の魅力を地域外の方へ発信(外部)
 地域の魅力の再確認、再発見(内部)
- * のき山学校プロジェクト →交流拠点(ハード)を整備し受け皿へ(のき山学校、蒼の森)
- * 蒼の森～ふるさと暮らし塾 →地域の特性を生かした交流体験メニューなど(ソフト)
 企画実行力を持つ人材の確保、育成

5

2016年2月 79本目の番組

情報発信事業

**奥三河
のき山放送局** tehohe.com



奥三河地域で行われるいろいろなイベントや豊かな自然、そして、それに関わる「元鬼(げんき)」な人たちにスポットをあてた番組です。

この地で暮らす人々の新鮮な生の声をお伝えしています。

(撮影クルーも志多らとともに東菌目で暮らしています。)

毎月1本の番組をてほへホームページ、YouTube、ケーブルテレビ(ティーズ、CCNet豊川局)などで放映中。



奥三河やそこに関わる人々のありのままに密着、取材し情報発信する番組を製作。

各団体の活動の記録、ホームページで使える映像製作など撮影できます。

～お気軽にお問い合わせください～
 *料金は、取材回数などで変わります。

ケーブルテレビへの番組提供
 志多らプロモーションDVD
 チェンソーアート大会DVD
 和太鼓イベントのDVD
 花祭りPR観光DVD
 奥三河観光サミット記録映像DVD
 行政関係のPR番組DVD

6

交流体験事業 のき山学校 プロジェクト

東栄町体験交流館 **のき山学校**
～2015年度より指定管理～
▪ Caféのつきい
▪ 図書室(のき山文庫)
NOKIYA



NP法人
てほへ

木造校舎を活用した交流体験の夢創造空間



地域の特性を生かした交流体験メニューなど(ソフト)
* 地域内外から講師を招集
自立した運営を目指し、基本的には有料で体験を行っている



6



遊び部屋



Caféのつきい



カフェ店内



のき山学校

NP法人
てほへ

交流拠点(ハード)を整備し受け皿として
(のき山学校、蒼の森)



祭り部屋



フリースペース



読み聞かせ会
(のき山文庫)

8

東栄町及び東蘭目地区での人口と世帯数の動向、志多ら・てほへの人口変動状況

○東栄町の人口・世帯数(住民基本台帳)		4月1日現在							11月1日現在
		1987(昭和62)	1990(平成2)	1995(平成7)	2000(平成12)	2005(平成17)	2010(平成22)	2015(平成27)	2015(平成27)
東栄町全体	世帯数	1,794	1,751	1,794	1,792	1,754	1,712	1,616	1,599
	人口	5,915	5,608	5,300	4,948	4,575	4,023	3,615	3,562
東蘭目地区	世帯数	43	38	36	35	32	32	38	38
	人口	137	127	117	110	102	84	77	72
志多ら てほへ 東蘭目地区 (志多ら、てほへによる人口増の占める%) その他町内	人数	0名 (0%)	0名 (0%)	9名 (8%)	12名 +子供1名 (12%)	10名 +子供4名 (14%)	10名 +子供5名 (18%)	12名 +子供6名 (23%)	
	人数					2名	4名	6名 +子供3名	
	人数							6名 +子供11名	

* 2015年で町内18歳以下377名中、志多ら・てほへ関係の18歳以下の人数20名。町内で18歳以下の子供の5%となる。

- ・全メンバーは、19歳～50歳代で構成されている。(Iターン者23名、Uターン者1名)
- ・26年間で移住20年を超えるメンバーもあり、2世の子供も増えてきている。
- ・新年度からは、志多ら研修生が4～6名加入予定。(志多らで生まれた2世も1名含む)
東蘭目居住者が16～18名へ
- ・独身者の中から結婚するものも出てくる可能性あり。
- ・2015年より40歳以下の男性メンバー5名が消防団へ加入

11



12

志多ら(Iターン者)の特質

- ・志多らは、プロ和太鼓演奏という**仕事をもって**、東栄町に移転。そして、メンバーが**移住**。
- ・和太鼓演奏で生きていくという**覚悟をもって活動**を行ってきた。
 - 入座したメンバーの大半が周囲の反対を押し切って和太鼓奏者への一歩を踏み出した。
 - 仕事をする上でも、一人一人が経営者という思いの中、みんなで志多らを創り上げてきた。
- ・日々の暮らしや花祭りなどの中で、地域の皆さんのやさしさや**地域に対する熱い思い**を感じていた。
- ・仕事から音楽・舞台を創造する特殊な職業のため、何もないところから思いを形にする**創造力**と団体生活の中での**団結力**、そして、ここで暮らしてプロとして成功するぞという**ハングリー精神**が大きな**実行力へと変化した**。

田舎に移住定住するには、**地域愛**と**覚悟**、そして、**プライド(誇り)**が重要

田舎での暮らしは不便という言葉 → 田舎で都会生活を求めているだろうか？
都会での暮らしは便利という言葉 → どこまで便利になったら満足できるのだろうか？

多くの人は、どんな暮らし・仕事・子育てをしたいか？などを考え選択していく。
その時、この地域は、どんなところだよと胸を張って言えるだろうか？
これが発信できる**地域力・人材力が最大の求心力**になっていく。

13

中山間地域だからこそできることを創造！ そこでしかできないこと(特徴・魅力・強味)

- ・何もないのが田舎。
(都会の便利さはないが、都会から見れば素晴らしいものがたくさんあるといわれる。)
- ・当たり前存在する自然や顔の見える人間関係が田舎の特徴であり強味。
(昔ながらの暮らしの中で存在していたこと)
- ・そこに暮らす人や受け継がれてきた文化芸能、生活の知恵や工夫、創造力こそが最大の魅力

人間力(笑顔で魅力にあふれ人材と創造力、そして実行力)

×

地域力(文化・環境的な魅力、住民・地域づくり団体と行政の連携)

求心力

*人の心をひきつけ魅力を発信するパワー

14

三遠南信地域連携ビジョン 重点プロジェクト

(平成20年3月策定)

政策の基本方針 4：中山間地域を活かす流域モデルの形成



①「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトの推進

地域環境の持続性を確保するために、流域圏の「健全な水・物質循環」の視点から、水資源確保、水質改善、物質循環のメカニズム解明を進めながら、複数のプロジェクトを共同化することで関係機関の相互調整を促進します。

【活動イメージ】

- ・ 「健全な水循環」に係る産・学・官・民による情報共有・情報交換ができる場づくりを進めます。
- ・ 産・学・官・民が参加し、県境を越えた「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトを推進します（遠州灘海岸の侵食防止、天竜川ダム再編事業、設楽ダム建設事業、浜名湖・三河湾の水質浄化活動、住民参加型の水質浄化に関する行動計画づくり等）。

【推進主体とその活動】

- ・ 国、県の協力の下に、市町村が中心となって活動促進を働きかけます。

② 上流域と下流域の自治体が連携した流域定住の推進体制の整備

下流域都市住民の中山間地域への居住に対する関心を喚起することで、上流域への人口流入を図るとともに、流域圏の多様性を活用することによって三遠南信地域の定住の魅力を増大させます。このために、上流域と下流域の自治体が連携して流域定住の検討体制を構築します。

【活動イメージ】

- ・ 受け入れ地区住民の意識調査等を行い、空き家、貸し家、遊休施設等の施設利用情報のデータベース化に取り組みます。
- ・ 流域定住や二地域居住を進めるための総合的な相談窓口の設置、居住体験が行える施設の整備、生活に関連した情報を円滑に提供できる仕組みづくりを進めます。
- ・ 長期滞在者向けの旅館利用や滞在施設（廃校、旧役場、空き家等）の整備を検討します。
- ・ 空き家、貸し家、遊休施設等の仲介を不動産会社等の民間企業に働きかけます。
- ・ 耕作放棄地や遊休施設に関心を持つ企業への施設・用地紹介や情報提供に取り組みます。
- ・ 遊休施設を社員保養施設として利用したい企業への支援を検討します。

【推進主体とその活動】

- ・ 上下流域自治体による検討体制を設けます。

政策の基本方針 5：広域連携による安全・安心な地域の形成

① 医療分野の県境を越える連携の促進

住民生活の安心を確保するために、最も基本となる地域医療体制を、県境を越えて整備します。

【活動イメージ】

- ・ 公立病院を中心とした医療施設の広域利用を進めます。
- ・ 医科大学と三遠南信地域自治体との連携を促進します。
- ・ 県境近接地域で、休日診療、夜間診療の連携が取れていないため、隣接県の医療施設の情報発信、医療施設利用の連携を進めます。
- ・ ドクターヘリの県境を越えた活動を支えるため、中山間地域での中継基地（燃料補給等）設置を検討します。
- ・ 情報通信技術を活用した遠隔地医療診断を検討します。

【推進主体とその活動】

- ・ 自治体を中心となって、具体的な検討、関係機関への働きかけを進めます。

② 三遠南信地域内住民に対する公共施設の広域利用推進

三遠南信地域住民に対する行政サービスの向上と施設の有効活用を図るために、公共施設情報の連携や公共施設の広域的な利用を促進します。

【活動イメージ】

- ・ 公共施設の県境を越えた利用を促進するポータルサイトの構築を検討します。
- ・ 公共施設の三遠南信地域内住民に対する利用制限を撤廃するとともに、自地域住民並の利用料金の設定を検討します。

【推進主体とその活動】

- ・ 自治体を中心となって、事業を推進します。

③ 県境を越える防災体制の強化

東海地震等の大規模災害が想定されることから、地域住民の生命、身体、財産等を災害から守るために、防災に関する関係機関の相互協力を、県境を越えて取り組みます。

【活動イメージ】

- ・ 地域の防災力の向上のため、自主防災組織の充実・連携に取り組みます。
- ・ 「三遠南信災害時相互応援協定」において、災害廃棄物の相互処理など、必要な項目の追加を検討します。
- ・ 広域防災拠点の相互連携を強化するため、港湾機能、道路機能（防災道路、緊急輸送路等）の充実を図ります。

【推進主体とその活動】

- ・ 自治体を中心となって、自主防災組織や自治会等と協力して事業内容を検討します